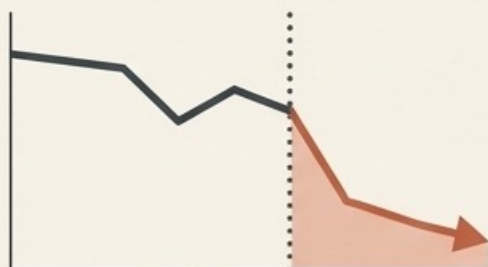


高齢者のSNS（LINE）利用を促進する教材開発と心理的アプローチ

「操作の恐怖」を取り除き、双方向の対話で根本的な認識のズレを解消する

現状と心理的ハードル（課題）



70歳



「70歳の壁」：70歳を境に利用者が激減。認知不足ではなく、「知っているが使わない」能動的な回避。



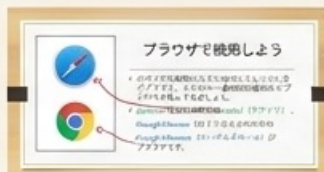
既存教材の限界：機能網羅的だが、学習者の優先度が不明確で専門用語の解説が欠如。



心理的障壁：「一度でも誤操作をすると壊れる」という強い恐怖。システムに対する根本的な認識の誤り（メンタルモデルのズレ）。

実証実験と教材の最適化プロセス

Step 1: 視覚的な誘導の強化



どの段階の説明が直感的に伝わるよう、矢印を追加し説明箇所を明確化。

Step 2: 構造の丁寧な解きほぐし





ホーム画面など、起点となる基本構造の詳細な図解と解説を増量。

Step 3: 「機能」の前に「目的」を提示



操作手順の前に「LINEのいいところ」を示し、学習への動機付けを行う。

導き出されたインサイト（結論）

 一方的な指導	高齢者特有の「誤操作への恐怖」などの根本的な認識の誤りに気付かず、学習が停滞する。
 双方向の対話	相手がシステムをどう捉えているかをヒアリングし、認識のズレを早期に発見・修正できる。



最大の結論

高齢者のデジタル学習支援において最も重要なのは、優れた教材だけではなく、「双方向の対話」を通じて心理的ハードルを取り除くことである。細かな認識のズレを修正することこそが、質の高い学習体験を生む。